

2022年度「書物との出会い イ (近代ヨーロッパと現代)」リーディングリスト

*各項目に含まれる内容

(1) 書誌情報 / (2) その本が関連する学問領域 / (3) キーワード : その本が関連するテーマなど / (4) 本の難易度 : 数が大きいほど難易度が高い / (5) 推薦した教員のコメント / (6) 推薦者の名前、所属

- (1) ジェームズ・マクラクラン (野本陽代訳) (2007年) 『ガリレオ・ガリレイ 宗教と科学のはざままで』、大月書店、ISBN : 9784272440436
- (2) 学問領域 : 科学史
- (3) キーワード : 近代科学、実験、数学、天動説、地動説
- (4) 難易度 : 1
- (5) ガリレオが遺したノートに基づく研究の成果もふまえて、当時の時代状況との関係で彼の生涯がわかりやすく解説される。関連する学問の歴史を簡潔に概観したうえで、ガリレオの位置を理解することもできる。
- (6) 推薦者 : 北林雅洋 (教育学部)

- (1) 隠岐さや香 (2018年) 『文系と理系はなぜ分かれたのか』、星海社新書、ISBN : 9784065123843
- (2) 学問領域 : 科学史
- (3) キーワード : 学問の歴史、日本の近代化、イノベーション、ジェンダー、学際化
- (4) 難易度 : 2
- (5) 日本の多くの高校生が選択を迫られる文系と理系に着目し、その現状を歴史的に分解して解き明かしたうえで、今日のイノベーションやジェンダーの視点から検討が加えられる。学問や大学の歴史、日本の近代化の特徴が要領よく示されている。
- (6) 推薦者 : 北林雅洋 (教育学部)

- (1) 大沼正則 (1995年) 『技術と労働』、岩波書店、ISBN : 4000036629
- (2) 学問領域 : 技術史、科学史
- (3) キーワード : 自然科学、文明、産業革命、戦争、原爆
- (4) 難易度 : 3
- (5) 人類にとっての技術の意義や技術の発展がもたらす諸矛盾が、人類の起源から今日までを通して、具体的に示される。そもそも技術とは何か、技術と自然科学の関係とは、戦争との関係をどうとらえるか、これらについて考える材料・視点が提供されている。
- (6) 推薦者 : 北林雅洋 (教育学部)

- (1) 阿部 謹也 (2007年) 『自分のなかに歴史を読む』 2007刊行 ちくま文庫 ISBN : 9784480423726
- (2) その本が関連する学問領域 : 歴史学、哲学
- (3) キーワード : 生きる、学ぶ、探求する、現在
- (4) 本の難易度 : 1
- (5) この本の内容は、部分的には、著者が歴史学の授業で語っていたことである。それに気づいたのは、卒業してしばらく経って本書を読んだときである。印象に残るのは、師、上原専祿との出会いである。著者の生きる道が定まったときである。血縁を超えて生きること、その意味が深く語られていると思う。学ぶということは、自分のなかにあることを見つけてそれを世界と地続きのものとして捉えなおすことである。「わかった」などと簡単に言うことはできないと著者が言っていたことを今も覚えている。
- (6) 推薦者 : 山本陽一

- (1) 阿波根昌鴻 (1973 年)『米軍と農民——沖縄県伊江島』岩波新書 ISBN : 9784004111047
- (2) その本が関連する学問領域 : 政治学、法学
- (3) キーワード : 戦い、生命、人間の尊厳、祖先、赦し
- (4) 本の難易度 : 1
- (5) この本との出会いは、女優木内みどりさんの本を介してである。木内さんは TV では知っていたが、こんなに一途な誠実な人であるということは知らなかった。その人の書いた本に本書が紹介されていた。沖縄はアメリカと日本の政府によっていじめられていることは周知の事実。本書は、その歴史を生きた著者の言葉である。単なる知識ではなく、生きられた言葉である。分析を許さない、淡々とした語り引き込まれる。半世紀を経てますます深く心を突き刺す。
- (6) 推薦者 : 山本陽一

- (1) シオドーラ・クローバー (2003 年)『イシ 北米最後の野生インディアン』岩波現代文庫 ISBN : 9784006030858
- (2) その本が関連する学問領域 : 人類学、歴史学
- (3) キーワード : 人間の尊厳、文明、文化、言語
- (4) 本の難易度 : 1
- (5) この本との出会いは、哲学者の鶴見俊輔さんの本を通じてであるが、それがどの本であったかは思い出せない。いろんな読みどころがあると思うが、わたしには旧石器時代の最後のインディアンと、大量殺りく兵器で戦った第 1 次世界大戦との時間的交錯が印象的である。アメリカ先住民の受難は、イギリスによる入植にはじまる。その本質はすでに福沢諭吉が『文明論之概略』で喝破している。最後のひとりの運命が「近代的」といわれる社会に問いかけることは多いと思う。
- (6) 推薦者 : 山本陽一

- (1) 阿部謹也 (2007 年)『近代化と世間』、朝日新聞社、ISBN:9784022618115
- (2) 学問領域 : 歴史学、民俗学、社会学、法学
- (3) キーワード : 大学、世間、歴史
- (4) 難易度 : 1
- (5) 大学で学ぶということ自体の意味を歴史的に考え、学習を日本でおこなう意味を批判的に論じている。ゲーテは「脚の下を掘れ、そこに泉が湧く」と述べているが、まさしく本書はそのようなものである。香川大学を含む大学教育の劣化を反省したい諸氏に推薦する。
- (6) 推薦者 : 山本陽一 (法学部)

- (1) トマス・ホッブズ (永井道雄・上田邦義訳) (2009 年、原著は 1651 年)『リヴァイアサン 1』、中央公論社、ISBN: 9784121601070
- (2) 学問領域 : 哲学、政治学、法学、歴史学、倫理学
- (3) キーワード : 国家、道徳、法律
- (4) 難易度 : 3
- (5) 一般に政治学の古典といわれるが、根本的には、世界を疑い自分で考えることをデカルトやベーコンと並んで実践した本。近代化という日本人にとっては避けたい課題を原初の形態において示す。本書は、レトリックを駆使して後世の人間を近代へと誘惑する。
- (6) 推薦者 : 山本陽一 (法学部)

- (1) 長尾龍一 (1994 年) 『リヴァイアサン』 講談社、絶版、ISBN:9784061591400
- (2) 学問領域：法学、思想史、政治学、歴史学
- (3) キーワード：国家、ホッブズ、ケルゼン、シュミット
- (4) 難易度：2
- (5) 近代国家を相対化することで、わたしたちの生きる世界を相対化してみせる稀有の書。微細な行論のなかに真理の輝きがある。その意味ですきがなく、にもかかわらず、遊び心を感じさせる。およそ知をもって立たんとする人間の姿が眼前にそびえるのを見るだろう。
- (6) 山本陽一 (法学部)

- (1) 御子柴義之 (2015 年) 『自分で考える勇気 カント哲学入門』、岩波ジュニア新書、ISBN : 9784005007981
- (2) 学問領域：哲学・倫理学・論理学、歴史学
- (3) キーワード：理性、批判、自律、啓蒙
- (4) 難易度：1
- (5) 「カントの原典にいきなり挑戦するのはちょっと…」と思っているみなさんに、まず読んでもらいたい一冊。身近な出来事とのつながりで、カント哲学のエッセンスと「自分で考えること」の大切さを教えてくれる。
- (6) 推薦者：佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (1) 石川文康 (1995 年) 『カント入門』、ちくま新書、ISBN : 978-4480056290
- (2) 学問領域：哲学・倫理学・論理学、歴史学
- (3) キーワード：理性、批判、認識、道徳、美
- (4) 難易度：1
- (5) 理性自体に人間を欺く可能性がある—このショッキングな事実の発見こそがカント哲学の出発点だとして、そこから著者はカント哲学の全体像を読み解いていく。本書を読むと、哲学もまたドラマチックな展開を持っているということがよくわかる。
- (6) 推薦者：佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (1) カント (中山元訳) (2012 年) 『道徳形而上学の基礎づけ』、光文社古典新訳文庫、ISBN:9784334752521
- (2) 学問領域：哲学・倫理学・論理学、歴史学
- (3) キーワード：人間の尊厳、道徳、理性、義務、善い／悪い
- (4) 難易度：3
- (5) 多くの事例に基づいて、善い／悪いとは何か、人間が守るべき道徳の原則とは何か、といった問題について読者に考えさせる倫理学の古典。正直、寝転がって読めるような簡単な本ではないが、この文庫には非常に詳しい解説があるので、そちらを参考にしながら読み進めてほしい。現代でもたびたび引き合いに出される書物なので、大学生のうちにぜひチャレンジを！
- (6) 推薦者：佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (1) マイケル・ローゼン (内尾太一ほか訳) (2021 年)『尊厳—その歴史と意味』岩波書店、ISBN : 9784004318705
- (2) 学問領域 : 哲学、法学、政治学
- (3) キーワード : 人間の尊厳、人権、カント、
- (4) 難易度 : 2
- (5) 「尊厳」はいろいろな仕方理解される語で、それが原因で論争が生じることも多い。ローゼンはこの混乱を「概念のルーツ」に戻ることによって解きほぐしていく。ルーツ探索をふまえ、具体的な事例に即した考察が展開される第二章、第三章は、「尊厳」について考えを深めるための材料の宝庫である。
- (6) 推薦者 : 佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (・) 辻村みよ子 (2013 年)『人権をめぐる一五講』、岩波現代全書、ISBN : 9784000291170
- (・) 学問領域 : 哲学・倫理学・論理学、法学、社会学
- (3) キーワード : 人権、多文化主義、フェミニズム、表現の自由、平和と安全
- (4) 難易度 : 2
- (5) 「人権の保障」という考えは、現代において誰もが認めるべき前提になっているように思える。しかし本書を読み、事例に即して考えてみると、「人権の保障」が、個別の権利や利害同士が衝突する非常に難しいテーマであることが分かる。本書は具体的な事例が豊富で、自分の関心のある考察の糸口がきっと見つかるはず。
- (6) 推薦者 : 佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (・) 辻村みよ子 (2012 年)『代理母問題を考える』、岩波ジュニア新書、ISBN : 9784005007226
- (・) 学問領域 : 哲学・倫理学・論理学、法学、社会学
- (3) キーワード : 人権、代理出産、生殖に関する権利 (リプロダクティブ・ライツ)、生殖ビジネス
- (4) 難易度 : 1
- (5) 憲法学、人権論の立場から「代理母出産」の問題に取り組んできた著者が、この問題の構造を分かりやすく解説。「生殖に関する権利 (リプロダクティブ・ライツ)」に関する入門書の中でもイチオシ。
- (6) 推薦者 : 佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (1) 魯迅 (竹内好訳) (2016 年)『阿Q 正伝・狂人日記 他十二編 (呐喊)』岩波文庫、ISBN : 9784003202524
- (2) 学問領域 : 文学、社会学
- (3) キーワード : 魯迅、呐喊 (とっかん)、近代中国、封建社会、社会変革
- (4) 難易度 : 1
- (5) 日本でも愛読者の多い魯迅の代表的な短編小説集であり、現実描写とユーモア満載の創作手法は特徴的である。「狂人」、「阿Q」などの人物を描くことによって、近代中国社会の救いがたい病根とは何かを問いかける。
- (6) 推薦者 : 張曉紅 (経済学部)

- (1) 川島真 (2010 年)『近代国家への模索 1894-1925』(シリーズ中国近現代史②) 岩波新書、ISBN : 9784004312505
- (2) 学問領域 : 歴史学、社会学
- (3) キーワード : 近代国家、清王朝、辛亥革命、中華民国、割拠
- (4) 難易度 : 2
- (5) 近代中国は諸列強に侵略される半植民地国家と化した。しかし「近代化」が西欧諸国からアジアに伝わってくる過程において中国の「知識人・有志」は日本と同じように「救国」について悩み、近代化への道を模索していた。
- (6) 推薦者 : 張曉紅 (経済学部)

- (1) 原田敬一 (2007年) 『日清・日露戦争』(シリーズ日本近現代史③) 岩波新書、ISBN : 9784004310440
- (2) 学問領域 : 歴史学、社会学
- (3) キーワード : 日清・日露戦争、朝鮮、明治、日本帝国
- (4) 難易度 : 2
- (5) 近代日本は、日清・日露戦争から始まった戦争によって東アジアを植民地にし、帝国にのし上がった。両戦争は東アジアの新秩序を形成した。日中韓の歴史認識をめぐる対立の原点はそこにあったかもしれない。
- (6) 推薦者 : 張曉紅 (経済学部)

- (1) 松本健一 (2008年) 『近代アジア精神史の試み』岩波書店 (岩波現代文庫 社会 158)、ISBN : 9784006031589
- (2) 学問領域 : 社会学、歴史学
- (3) キーワード : アジアの共時性、脱亜入欧、共存共栄
- (4) 難易度 : 3
- (5) 本書は近代から今日に至るアジア諸国の歩みを精神史の視点からそれぞれの特徴を明らかにした。アジアの近代形成のみならず、今日のアジアの繁栄・競争・対立を正當に評価するために欠かせない視点も提示してくれる。
- (6) 推薦者 : 張曉紅 (経済学部)

- (1) 花田清輝 (2008年) 『復興期の精神』講談社、ISBN:9784062900133
- (2) 学問領域 : 文芸批評
- (3) キーワード : ルネサンス、マルクス主義、近代の超克
- (4) 難易度 : 3
- (5) 太平洋戦争下に書かれた西洋ルネサンス論。花田は、ある天文学者と殺人者を論じ、「ひとりには晴れわたつた空に、ひとりには湿気を含んだ壁に、—すなはち、かれらの前に立ちふさがり、絶えずじりじりとかれらを圧迫しつづけているものなかに、不意に二つの焦点のある、かれらの魂の形をみいだした」と述べている。日々忙しく、なんとなく生きにくい最近の世のなかであるが、我々もそろそろそんな魂をみるころがあるだろう。
- (6) 推薦者 : 渡邊史郎

- (1) カール・マルクス (森田成也訳) (2020) 『共産党宣言』光文社、ISBN : 9784334754204
- (2) 学問領域 : 社会思想
- (3) キーワード : 共産主義、プロレタリアート、ブルジョアジー
- (4) 難易度 : 3
- (5) 本書が書かれたとき日本はまだ江戸時代。共産主義というと全体主義的な官僚国家が想起されるかも知れないが、本書からはそんな印象はない。マルクスが言いたいのは、人類の歴史は、ただの争いの連続ではなく、階級闘争の歴史だということである。共産主義者とはその闘争のなかで必然的に出現する何者かであって、そう呼ばれなくても常に存在しているということになるだろう。
- (6) 推薦者 : 渡邊史郎

- (1) 太宰治 (2009 年) 『お伽草紙』 新潮社、ISBN: 9784101006079
- (2) 学問領域: 小説
- (3) キーワード: 戦争、日本古典文学、パロディ
- (4) 難易度: 2
- (5) 太平洋戦争中、娘と一緒に防空壕に逃げ込みながら書かれたと言われる、日本の昔話のパロディ「お伽草子」などをおさめた本である。「浦島さん」、「カチカチ山」、「瘤取り」などには、日本社会や日本人への太宰特有の嫌みが隠微に炸裂している。それは滅びつつある日本に対する正直な批判だったのか、あるいは悪ふざけだったのだろうか。
- (6) 推薦者: 渡邊史郎

- (1) チャールズ・ディケンズ (中川敏訳) (1991 年) 『クリスマス・キャロル』、集英社文庫、ISBN : 408752017X
- (2) 学問領域: 文学
- (3) キーワード: 19 世紀イギリス、キリスト教文化、社会問題、教育
- (4) 難易度: 2
- (5) クリスマス・イヴの一晩で守銭奴の金貸しが改心するまでを描く、19 世紀イギリスを代表する文豪の作品。小説家ディケンズの魅力だけでなく、資本主義やクリスマスなど現代につながるテーマ性も十分。
- (6) 推薦者: 杉田貴瑞 (教育学部)

- (1) 新井潤美 (2016 年) 『魅惑のヴィクトリア朝: アリスとホームズの英国文化』、NHK 出版新書、ISBN : 9784140884942
- (2) 学問領域: 文学、文化研究
- (3) キーワード: 19 世紀イギリス、文化研究、社会問題、歴史
- (4) 難易度: 1
- (5) 「イギリス」と言われて何を思い浮かべるだろうか? 現代イギリスの基礎の大半は 19 世紀に生まれたと言っても過言ではない。その文化についてシャーロック・ホームズシリーズなどの有名な文学作品を切り口に解説した一冊。
- (6) 推薦者: 杉田貴瑞 (教育学部)

- (1) 坪内逍遙 (2010 年) 『小説神髓』、岩波文庫、ISBN : 9784003100417
- (2) 学問領域: 文学、国際日本学、近代日本文化
- (3) キーワード: 明治日本文学、近代ヨーロッパ受容
- (4) 難易度: 3
- (5) 海外の文化を取り入れて、自国の文化を発展させる。21 世紀の現代では自明のことのように思えるかもしれないが、実は明治のころからそのような試みは行われていた。「日本独自の小説を作り上げるには何をすべきか」という大きすぎる問題を大真面目に解説した実験作。
- (6) 推薦者: 杉田貴瑞 (教育学部)